



グローバル探究ライフ

コンフォートゾーンから飛び出すことで、学校生活ではできない出会いや体験ができるのが留学。その経験者たちに、リアルな留学ライフと気持ちの変化について語ってもらうシリーズです!

File No.6



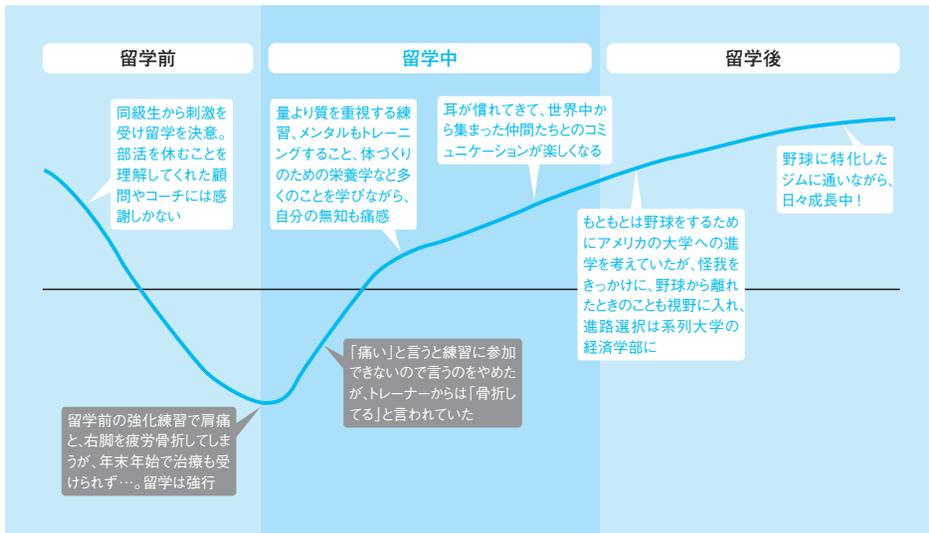
中間大喜さん (21歳)
初芝立命館中学校・高校 (大阪・私立) 卒業

小学校2年生からソフトボール、4年生から野球を始め、世界中から生徒が集まりエリートアスリートを輩出する、アメリカのIMGアカデミーに高校2年生のときに留学。将来はスポーツビジネスに就くことを視野に、立命館大学経済学部で学びながら野球にも真剣に取り組んでいる。

部活を長期休む野球留学を
顧問・コーチも応援してくれた

野球に打ち込んでいて、中学時代から日米のトレーニング方法の違いに興味を抱いていました。高校にあがってから、学校に「トビタテ！」の留学にチャレンジできる仕組みがあることを知りました。当時隣席だった女子生徒がほかの生徒とは発想が異なり、国際ボランティアなどの活動をしていて、海外に行ったことがないにもかかわらず、「トビタテ！」を通じてガーナに行きたいと言っていたのです。その子からの影響を受けて、自分も留学に挑戦してみようという決意。母校の野球部は甲子園出場を目指していたので、本来は部活を休んで1カ月も留学なんてあり得ないのですが、先生やコーチたちは「海外の練習方法を見てこい」と挑戦を応援してくれました。

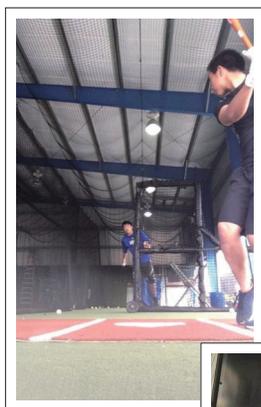
渡航直前の怪我により、留学中は思うように体を動かせなかったものの、その分、知識を入れることに力を入れました。海外から学ぶべき点、日本野球の良さの両方に気づくことができた貴重な経験となりました。



DATA

- 【留学した年齢】17歳
- 【留学した国】アメリカ
- 【留学期間】高校2年の1月に約1カ月間
- 【留学内容】IMGアカデミーでの野球留学
- 【留学しようとおもったキッカケ】「トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム」に挑戦する仕組みが学校にあり、同級生が挑戦していたから

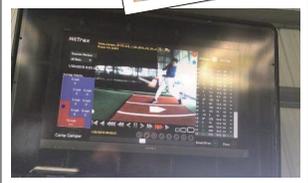
*「トビタテ! 留学JAPAN 日本代表プログラム」(以下、文中では「トビタテ!」)とは文部科学省が官民協働で留学促進を展開するキャンペーンによる留学支援制度。



IMGアカデミーでバッティング指導していただいたコーチ。アメリカではバッティング指導の専門の役職を「ヒッティングコーディネーター」と呼んでいる。



子どものころからピッチャーとして活躍!



IMGアカデミーでのバッティング練習。実際に打った後、打撃フォームが動作解析されてモニターで確認できるようになっている。



立命館大学の野球部の仲間たちと。野球に打ち込んできたが、最後の年はスポーツの市場調査を学びにオーストラリアなどに留学してみたいと考え中。



現在は、オフシーズンにはプロ野球選手もトレーニングに来る、野球に特化したジムで日々トレーニング。

将来は、何らかの理由で競技を辞めたスポーツ選手たちの選抜肢を増やす仕事をしてみたい!

